

かい
開

さい
祭

一同立つ。
ここで聖歌を用いてもよい。

司式者 ^{えいこう} 栄光は、^{ちち} 父と^こ 子と^{せいれい} 聖霊に

会衆 ^{はじ} 初めの^{いま} ように、^よ 今も、^よ 世々に^{かぎ} 限りなく アーメン

せい ご
聖 語

司式者 ^{せいしょ} 聖書のみ^{ことば} 言葉を^き 聞いて、^{れいはい} 礼拝を^{はじ} 始めましょう

祈禱書 46 ページ以下の聖語を教会暦に依じて、または自由に選んで言う。聖書の中のほかの聖句を用いてもよい。

し しきしゃ あいさつ
司式者の挨拶

ここで司式者は簡単な挨拶の言葉を述べることができる。

ざんげ ゆる いの
懺悔と赦しの祈り

司式者 ^{かみ} 神のみ^{まえ} 前に^{みずか} ひざまずいて、^{かえり} 自らを^{つみ} 省み、^{ゆる} ともに^{いの} 罪の赦しを祈り
りましょう

ここで一同ひざまずく。
共同懺悔(祈禱書 295 ページ)を用いるときは、ここです。
しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

^{あわ} 憐れみ^{ふか} 深い^{ちち} 父なる^{かみ} 神よ、^{わたし} わたしたちは、^{しては} しては^{ならない} ならないことをし、^{しな} しなければ^{ならない} ならないことをせず、^{おも} 思いと、^{ことば} 言葉と、^{おこな} 行いによって、^{おほ} 多くの

つみ おか つみふか ゆる あたら
罪を犯しています。どうか罪深いわたしたちをお赦してください。新し
いのち あゆみ ところ したが さか あらわ すく
い命に歩み、み心に従い、み栄えを現すことができますように。救
ぬし い主イエス・キリストによってお願いいたします

アーメン

とく とう
特 禱

司式者 ^{いの}祈りましょう

ここで当日の特禱を用いる。

こと ば
み 言 葉

司式者 ^{せいしよ} ^{ことば} ^き聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

きゆうやくせいしよ
旧約聖書

朗読者または司式者は旧約聖書を朗読してもよい。その前に次のように言う。
「旧約聖書は 書第 章 節から」。朗読後、「旧約聖書を終わります」と言う。旧約聖書以外のものを読むときは「旧約聖書」をとる。
司式者は旧約聖書、使徒書、福音書の後に「いま聞いたみ言葉について黙想
しましょう」と言って黙想の時をおいてもよい。勤めの言葉を省く場合は特
に、福音書の朗読の後でしばらく沈黙のうちにみ言葉を味わう時間を持つこ
とが勧められる。

使徒書の前にその日にふさわしい詩編を用いてもよい。

しとしよ 使徒書

朗読者または司式者は使徒書を歌いあるいは朗読する。その前に次のように言う。「使徒書は 書第 章 節から」。朗読後、「使徒書を終わります」と言う。

次に一同立つ。ここで昇階唱または聖歌を用いてもよい。
復活日から8日間は復活の歌を用いてもよい。

ふくいんしよ 福音書

朗読者または司式者は、次の唱和の後、福音書を歌いあるいは朗読する。一同福音書の方を向く。

朗読者 ^{せい} 聖 ^{ふくいんしよだい} による福音書第 ^{しやう} 章 ^{せつ い か しる} 節以下に記された主イエ ^{しゅ}
ス・キリストの福音。主に栄光 ^{ふくいん しゅ えいこう}
会衆 ^{しゅ えいこう} 主に栄光がありますように

福音の朗読が終わったとき、次のように歌いまたは唱える。

朗読者 ^{しゅ かんしゃ} 主に感謝
会衆 ^{しゅ かんしゃ} 主に感謝します

すす 勸め

司式者または会衆の代表者が、朗読の内容に基づいたふさわしい勸めの言葉を述べることができる。

し と しんきやう 使徒信經

一同立って歌いまたは唱える。

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。また、そのひとり子、主イエス・キリストを信じます。主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖霊を信じます。聖なる公会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます

アーメン

だい とう 代 禱

一同立つ。

司式者または会衆の代表者は次のように言う。

司式者 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全公会のため、また世界のために祈りましょう

ここで「 のために黙禱しましょう」と言って、感謝と代禱の題目をあげ、会衆に黙禱を求めてもよい。また会衆に感謝と代禱の題目を求めてもよい。黙禱に代えて祈禱書中の適当な祈りを用いてもよい。

「ことに」の後に適当な名前をあげてもよい。

司式者 神よ、主の公会(ことに)を強めて、み子のみ業を行わせてください。すべての聖職と信徒(ことにわたしたちの主教)を導き、み名を呼ぶものを主の真理と愛のうちに一致させ、日々主の栄光をこの世に現すものとならせてください

会衆 主よ、お聞きください

各応唱の後に、しばらく黙禱してもよい。

司式者 神よ、すべての^{かみ}国^{くに}(^{こと}に)の^{ひと}人^{びと}びとに^{ちえ}知^{あた}恵^{せいぎ}を^{あた}与^ええて^{せいぎ}正^{あた}義^ぎと
へい^わ平和^{みち}の^{みち}道^{みち}に^{たが}導^{たが}いて^{そんけい}く^{こころ}だ^{あた}さい。互^{たが}いに^{そんけい}尊^{こころ}敬^{あた}する^{あた}心^{あた}を^{あた}与^ええ、^{とも}と^{もと}も
に^{ひと}す^{さいわ}べて^{もと}の^{もと}人^{もと}の^{もと}幸^{もと}い^{もと}を^{もと}求^{もと}め^{もと}さ^{もと}せ^{もと}て^{もと}く^{もと}だ^{もと}さい

会衆 主よ、お聞きください

司式者 神よ、わたしたちと^{かみ}家^{かぞく}族^{ぞく}、^{ゆうじん}す^{となり}べて^{ひと}の^{ひと}友^{とも}人^{ひと}と^{ひと}隣^{となり}り^{ひと}人^{ひと}(^{こと}に)
に^{めぐ}恵^{めぐ}み^{めぐ}を^{めぐ}与^{めぐ}え、^{とも}と^{とも}に^{とも}主^{とも}を^{とも}知^{とも}り、^{とも}と^{とも}に^{とも}主^{とも}に^{とも}仕^{とも}え、^{とも}と^{とも}に^{とも}互^{とも}いに^{とも}愛^{とも}する^{とも}こ^{とも}と
が^{とも}で^{とも}き^{とも}る^{とも}よ^{とも}う^{とも}に^{とも}し^{とも}て^{とも}く^{とも}だ^{とも}さい

会衆 主よ、お聞きください

司式者 神よ、^{かみ}悩^{なや}む^{ひと}人^{ひと}、^{かな}悲^{ひと}し^{ひと}む^{ひと}人^{ひと}、^{びよう}病^{ひと}気^{ひと}の^{ひと}人^{ひと}、^{ます}貧^{ひと}しい^{ひと}人^{ひと}、^たそ^たわ^たざ^たわ^た
の^{なか}中^{なか}に^{なか}あ^{なか}る^{なか}人^{なか}び^{なか}と^{なか}(^{こと}に)を^{かえり}顧^{かえり}み、^{ちから}み^{ちから}力^{ちから}を^{ちから}与^{ちから}え、^{ゆう}勇^{ゆう}気^{ゆう}
と^{きぼう}希^{きぼう}望^{きぼう}を^{きぼう}増^{きぼう}し^{きぼう}加^{きぼう}え、^{しゅ}主^{しゅ}の^{しゅ}救^{しゅ}い^{しゅ}の^{しゅ}喜^{しゅ}び^{しゅ}に^{しゅ}導^{しゅ}いて^{しゅ}く^{しゅ}だ^{しゅ}さい

会衆 主よ、お聞きください

司式者 神よ、^{かみ}世^よを^よ去^よった^よす^よべ^よて^よの^よ人^よ(^{こと}に)を^{かえり}顧^{かえり}み、^{かれ}彼^{かれ}ら^{かれ}の^{かれ}上^{かれ}に^{かれ}
主^{しゅ}の^{しゅ}愛^{しゅ}の^{しゅ}み^{しゅ}旨^{しゅ}を^{しゅ}成^{しゅ}し^{しゅ}遂^{しゅ}げ^{しゅ}て^{しゅ}く^{しゅ}だ^{しゅ}さい。わ^よた^よし^よた^よち^よは、^よ世^よ々^よに^よ主^よ
の^{しやう}証^{しやう}人^{しやう}た^{しやう}ち^{しやう}に^{しやう}与^{しやう}え^{しやう}ら^{しやう}れ^{しやう}た^{しやう}主^{しやう}の^{しやう}恵^{しやう}み^{しやう}の^{しやう}ゆ^{しやう}え^{しやう}に、^なみ^な名^なを^なた^なた^なえ^なま^な
す。ど^かう^か、わ^かた^かし^かた^かち^かも、^{かれ}彼^{かれ}ら^{かれ}と^{かれ}の^{かれ}交^{かれ}わ^{かれ}り^{かれ}を^{かれ}保^{かれ}ち、^{とも}と^{とも}に^{とも}み^{とも}
国^{くに}の^{くに}栄^{くに}光^{くに}に^{くに}あ^{くに}ず^{くに}か^{くに}ら^{くに}せ^{くに}て^{くに}く^{くに}だ^{くに}さい

一同 主よ、これらの^ここ^こと^こを^こみ^こ子^こイ^こエ^こス^こ・キ^こリ^こス^こト^こに^こよ^こっ^こて^こお^こ願^こい^こい^こ
た^こし^こま^こす アーメン

かん 感 謝

司式者 主の^{しゅ}栄^{しゅ}光^{しゅ}を^{しゅ}た^{しゅ}た^{しゅ}え、^{しゅ}主^{しゅ}に^{しゅ}感^{しゅ}謝^{しゅ}を^{しゅ}献^{しゅ}げ^{しゅ}ま^{しゅ}し^{しゅ}ょう

次の聖語の中の一編または数編を司式者が朗読する。

世^せ界^{かい}よ、^{しゅ}主^{しゅ}に^{しゅ}向^{しゅ}か^{しゅ}つ^{しゅ}て^{しゅ}喜^{しゅ}び^{しゅ}の^{しゅ}声^{しゅ}を^{しゅ}上^{しゅ}げ^{しゅ}よ。主^{しゅ}は^{しゅ}恵^{しゅ}み^{しゅ}深^{しゅ}く、^{いつ}慈^{いつ}しみ^{いつ}は^か限^か

りなく、そのまことは世々に及ぶ (詩 100:1a,4)

ハレルヤ、主の僕よ、ほめたたえよ、主のみ名をほめたたえよ。主のみ名に賛美、今よりとこしえに (詩 113:1,2)

すべての者よ、主のみ名をたたえよ。み名のみがあがめられ、その栄光は天地を覆う (詩 148:14)

ハレルヤ、新しい歌を主に歌い、忠実な僕たちの集いで神をほめたたえよ (詩 149:1)

ハレルヤ、聖所におられる神をたたえよ、力みなぎる大空におられる神をたたえよ。息あるすべてのものは主をたたえよ、ハレルヤ (詩

150:1,6)

ここで聖歌を用いてもよい。また、賛美の歌(祈禱書 27 ページ)、万物の歌(祈禱書 28 ページ)、マリアの賛歌(祈禱書 38 ページ)、主への賛歌(祈禱書 72 ページ)、その他ふさわしい詩編・賛歌を用いることもできる。献金をする場合は、ここで行う。

献金をした場合、一同で以下の祈りを唱える。

すべてのものは主の賜物。わたしたちは主から受けて主に献げたのです

アーメン (歴代上 29:14)

まじ 交わり

会衆はひざまずく。

主の祈り

司式者 主イエス・キリストが教えられたように祈りましょう

天にいますわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。み国が来ま

すように。み^{こころ}心^{でん}が天^{あこな}に行^ちわれるとおり、地^{あこな}にも行^ちわれますように。
日^ひごとの食^{しょくもつ}物を今^{きょう}日も与^{あた}えてください。わたしたちに対して罪^{たい}のある
者^{もの}を赦^{ゆる}していますから、わたしたちの罪^{つみ}も赦^{ゆる}してください。わたしたち
を^{こころ}試^{おちい}みに^あ陥^{あく}らせずに、悪^{あく}から救^{すく}い出^だして^だください。

続いて一同次の言葉を歌いまたは唱える。

み^{くに}国^{ちから}も力^{えいこう}も栄^よ光^よも、世^{かぎ}々に^{しゅ}限りなく主^{しゅ}のものだからです

アーメン

へい^わ せい^わ
平和^{あいさつ}の挨拶

司^{しゅ}式^で者^し イエス・キリストよ、あなた^{なか}は弟^た子^たたち^なの中^なに立^たって^ふ復^か活^つの
み^{すがた}姿^{あらわ}を現^{あらわ}され、「あなた^{へい}がた^わに平^{へい}和^わがある^いように」と言^いわれ
ました。どうか、^{いま}今^{いま}、わたしたち^のの^のうち^のにもお臨^のみ^のになり、わ
たしたち^{へい}に平^わ和^わと一^{いっ}致^ちをお与^{あた}え^くだ^さい

一同 アーメン

司^{へい}式^わ者^{あい} 平和^{さつ}の挨拶^がを交^かわ^しま^しょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

いの
祈^{いの}り

一同ひざまずく。

司^{いの}式^{いの}者^{いの} 祈^{いの}りま^{いの}し^{いの}ょう

一同で次の祈りを唱える。

主^{しゅ}イエス・キリストよ、世^せ界^{かい}に^{ひろ}広^{ひろ}がる^きあ^んな^たの^き教^き会^{かい}に^ああ^つて、こ^{しゅ}の^{じつ}主^{じつ}日^{じつ}
に^{かん}感^{さん}謝^び・^{まつ}賛^{まつ}美^{まつ}の^{おこ}祭^{まつ}り^{おこ}を行^{おこ}な^うす^べて^のの^{ひと}人^{ひと}々^とと^{とも}共^{とも}に、わ^いた^いし^また^いち^まを^い今^{いま}、あ

あなたの豊かな恵みで満たしてください。そして、どうかわたしたちを、
あなたの恵みのうちに迎え入れてください。わたしたちがいつもあなた
の恵みのみ業を感謝し、そのみ業に動かされ、すべてを献げてあなたの
愛にこたえていくことができますように アーメン

ここでしばらく黙祷する。

へい さい
閉 祭

司式者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、わたし
たちとともにありますように (II コリント 13:13)

会衆 アーメン

一同立つ。

司式者 主の恵みと平和のうちに

会衆 神よ、感謝します アーメン